

# 『すべて数えられている』 (マタイの福音書 10章 24-33節) 2020.8.30.

<はじめに> この世に生きることは、楽しみや希望でしょうか。それとも不安や恐れの方が色濃く感じられるでしょうか。悩みや不安は生きる力を削ぎます。私たちはこの世にあって、恐れとどう向き合っていけばよいのでしょうか。

## I 狼の中に羊を

### ①12 弟子の派遣 (1-15)

本章は主イエスが 12 弟子を選び(1-4)、各地に派遣する際のメッセージ(5)です。天の御国が近づいたことを伝え(7)、神の平安を祈るため(12-13)に彼らは遣わされました。彼らに委ねた奉仕の範囲(5-6)、使命(7-8)、装備(9-10)、手順(11-15)を主は示されています。

### ②直面する困難 (16-23)

この派遣は、狼の中に羊を送り出すよう(16)、と主は言われます。敵対者が彼らを捕え、迫害し、権力者たちの前に引き出されます。身内さえも逆らい立ち、主の御名のゆえにすべての人に憎まれます。迫害に会うとき、逃げることを主は命じておられるのは、興味深いことです。

### ③賢く、素直に (16)

賢さは判別力です。蛇のように用心深く相手と機会を伺います(17⇒11)。素直さは主人に対してです。伝書鳩は目的地を目指し、伝言を伝えます(19-20⇒27)。この2つの特徴はこの世に生きるクリスチャンにも必要です。

## II 恐れてはいけません

### ①弟子は師にまさらず (24-25)

これだけ困難・迫害を予告されると不安になります。主はその心を読み取り、恐れるな、と言われます。主がどう呼ばれ、どう扱われたか、またどう振舞われ、勝利者となられたかを知ることは、私たちに覚悟、慰め、希望をもたらします。

### ②必ず明らかに (26-27)

苦難は行く手を閉ざしますが、反対に隠された真理が明らかにされる時だ、と主は言われます。主の十字架は正しくそうでした。死はいのちに呑まれました。私たちのいのちも隠されています(コロサイ 3:3)。この奥義を知った私たちは、むしろ大胆に証しするのです。

### ③真に恐れるべき方 (28)

身体に宿る命にこだわると、この世は恐れるものに満ちていますが、それらはたましいまでは滅ぼせません。「たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことのできる方」は神お一人です。この神は、ご自分を畏れ敬う者を顧み、救い、永遠のいのちを与えてくださいます。

## III 一羽の雀さえ

### ①一羽の価値 (29-30)

二羽で 1 アサリオンの雀は、ルカ 12:6 では五羽で 2 アサリオンで売られています。まとめ売りにすれば一羽おまけです。一羽の値打ちはその程度です。そんな雀の一羽のいのちさえ、神の支配と権限の中に置かれています。髪の本数さえも把握されている方です。

### ②あなたがたは価値がある (31)

苦しみの中に置かれると、私たちは神から忘れられ、見捨てられたように感じます。雀や髪の毛でさえすべて掌握され、支えられる神が、私たちの父であると聖書は言います。父が子を何にも増して大切にしないはずがありません。だから恐れることはないのです。

### ③わたしを認めるなら (32-33)

主を証しすることにためらい、恐れる私たちに、主は地上の証しと天上の法廷がつながっていることを示されます。「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう」(ロマ 8:31)。この方は圧倒的な勝利者です。だから恐れてはいけません。

<おわりに> 私たちを不安に陥れようとするものや動きは、この世に満ちています。それらを凝視しているから恐れてしまうのではないのでしょうか。「目をイエスに向け その御顔見れば 栄光と恵みは照り 地のものは消え去る」(教会福音 415)のです。(H.M.)